



おとがわ



ふお～ゆ～

校長室だより

第 14 号

R3.6.25

文責 中西 勉



## 「つ」のつくうちに

「挨拶」「返事」「はきものを揃える」の三つの大切さについて、「校長室だより」第9～11号でお伝えしました。これらの重要性は、国民教育の父と言われる教育哲学者の森信三氏が、「躰（しつけ）の三原則」として提唱されています。そして、この三原則は、特に「つ」のつくうちに身に付けておくことが肝要だとされています。「つ」のつくうちとは、年齢を数えた際に「つ」がつく「一つ」（1歳）から「九つ」（9歳）を指します。この年齢のうちに上手に躰が行えると、子供の「我」がとれるそうです。「我」がとれると、子供はその場の空気を読めるようになり、わがままを言うことを控えるようになります。「九つ」を目安とし、できるだけ子供が小さいうちに、この躰を行いたいですね。

この躰をする際、ポイントとなるのは、親（学校では教師）が「言って聞かせる」のではなく、「して見せる」ことです。「子供は、親の言うようにせず、親のするようにする」という言葉もあります。親や教師が自ら率先して行動で示すことが、上手な躰への近道と言えるでしょう。

先日、私が正門のところで登校してくる子供たちに挨拶をしていると、低学年のお子さんを学校に送ってこられたお母さんがいらっしゃいました。そのとき、まず、お母さんが私に「おはようございます」と挨拶をされました。続いてお母さんが、お子さんに挨拶するように促されると、そのお子さんは「おはようございます」と上手に気持ちの伝わる挨拶をすることができました。この親子の姿に触れ、親が「して見せる」ことの大切さを改めて実感しました。

また、子供が「つ」のつくうちに身に付けたことは、習慣になっていきます。学校では、現在、「あじさい読書週間」で子供たちが本に親しめるように取り組んでいますが、読書の習慣も「つ」のつくうちに身に付けるのが効果的です。読書が習慣となれば、その後の子供の心の発達や思考力の伸長に大きくプラスとなることでしょう。

今後も保護者と学校がしっかりと連携し、「つ」のつくうちに躰と良い習慣を身に付けられるようにしていきたいと思います。ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



☆☆☆☆☆☆ 男川っ子の輝き（昨日の図工・家庭科の研究授業より） ☆☆☆☆☆☆



▲粘土の作品を変化させて動画を作る1年生



▲並縫いと半返し縫いを練習する5年生



▲5大栄養素について調べる5年生